

山口情報芸術センター開館 5周年記念事業：滞在制作/パフォーマンス公演

珍しいキノコ舞踊団 × plaplax 新作ダンス作品 The Rainy Table [ザ レイニィ テーブル]

2009年2月28日(土) 19:00 / 3月1日(日) 14:00 *各30分前開場

※3月1日終演後、参加アーティストによるポストトークをおこないます。

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA



ダンスとメディアアートが出会い、ポップでキュートな世界を創り出す

山口情報芸術センター [YCAM] では、開館5周年記念事業の最後を飾る公演「The Rainy Table」を2009年2月28日(土) / 3月1日(日)に開催します。

この作品は、ダンスカンパニー「珍しいキノコ舞踊団」とアートユニット「plaplax (プラブラックス-近森 基+久納鏡子+寛 康明)」の初めての共同作品で、約1ヶ月にわたるYCAMでの滞在制作を経て発表される新作パフォーマンス公演です。珍しいキノコ舞踊団とplaplaxが本格的な舞台作品に挑戦する本作を通じて、YCAMがこれまで取り組んできた〈アート↔メディア↔身体表現〉の新たな魅力を展開します。



「3mmくらいズレてる部屋」(2006) photo: Yohta Kataoka



「Tool's Life」(2001)

それは〈雨の中のテーブル〉という印象的なシーンから始まる旅の物語。ポップでキュート、わくわくするような冒険に出かけましょう。

普段の何気ない感覚や気持ちをキュートなダンスで表現する「珍しいキノコ舞踊団」。そして身の回りにある道具とメディアテクノロジーを組み合わせ、五感や想像力を刺激するアート作品を発表している「plaplax」。この2組に共通するのは、私たちの「日常」を捉え、そこから見えてくるファンタジーや驚きを、遊び心をもって表現することです。今回、彼らが共同で制作するダンス作品は、そんな「日常」のすき間から広がる「旅」がテーマ。ダンサーの動きに絡むさまざまな映像や美術が、私たちに不思議な冒険へと誘います。観る人に新たな感覚を呼び起こす刺激的な新作を、ぜひご覧ください。

振付・構成・演出：伊藤千枝(珍しいキノコ舞踊団)
舞台美術・映像演出・メディアテクノロジー：plaplax(近森 基+久納鏡子+寛 康明)
音楽：大野由美子 (Buffalo Daughter)

主催：財団法人山口市文化振興財団、財団法人せたがや文化財団、
珍しいキノコ舞踊団、plaplax
企画・制作：珍しいキノコ舞踊団、plaplax、
山口情報芸術センター [YCAM]、世田谷パブリックシアター
助成：平成20年度文化芸術振興費補助金(芸術創造活動重点支援事業)、
財団法人地域創造
協賛：株式会社資生堂
後援：山口市、山口市教育委員会

<http://therainytable.ycam.jp/>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は下記までご連絡ください。

お問い合わせ 広報担当：廣田

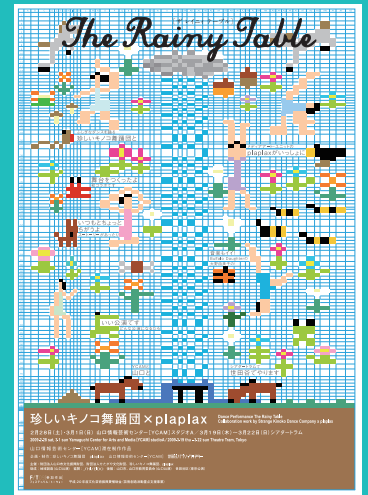
〒753-0075 山口県山口市中園町7-7 Tel: 083-901-2222 Fax: 083-901-2216

e-mail: information@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>

The Rainy Table

[ザ レイニィ テーブル]

日常の中のダンスを捉えることで今の時代を生きる「女の子」のリアルを表現し、人気を集める珍しいキノコ舞踊団と、影や香りをつかったインタラクティブアートで国際的にも評価の高いplaplaxが、YCAMで初のコラボレーション。さらに、音楽には大野由美子 (Buffalo Daughter) が参加し、本作のために新曲を書き下ろします。ダンス、メディアテクノロジー、音楽など、魅力的なアーティストの相互作用が生み出す魔法のような「旅」の物語にご期待ください。



Strange Kinoko Dance Co.

珍しいキノコ舞踊団 (めずらしいきのこぶようだん)

日常をキュートなダンスに変えていく

1990年に結成された珍しいキノコ舞踊団は、日常と繋がるダンスが印象的なカンパニーです。単に日々の生活の身振りを舞台上に載せるのではなく、感覚や気持ちまでも自然に表現した彼女たちのダンスは、多くの人々に心地よさを与えてきました。それは、モダンダンスやバレエの経験に裏打ちされた技術を、あくまでも軽やかな動きで表現する彼女たちの魅力といえるでしょう。

また、珍しいキノコ舞踊団は、観客との関係においても特徴的な作品を発表しています。美術館の中庭、カフェ、オフィスなどで上演をおこなうなど、劇場を飛び出し、観客と接しながらその場所の空気感や時間を共有することで、舞台と客席との新しい関係を築いています。さらに、ダンスの途中に挟まるおしゃべりや歌などの楽しい演出も見どころのひとつです。こうした彼女たちの空間に対する反応の鋭さや祝祭的な観客との一体感によって、どのような夢の世界が広がるのか、ご期待ください。

珍しいキノコ舞踊団

1990年、日本大学芸術学部在籍中の伊藤千枝、小山洋子、山下三味子によって結成。代表作「フリル(ミニ)」(2000)で日本舞踊批評家協会新人賞を受賞し、アビニオン・フェスティバル・オブ(アビニオン/フランス)など海外数カ所でも上演。「FLOWER PICKING」(2003)は国内公演後、ストックホルムの野外劇場にて上演、2日間で7千人を動員した。このほか、「3mmくらいズレてる部屋」(2006)を金沢21世紀美術館、シドニーオペラハウスなどで上演。「あなたの寝顔をなでてみる。」(2007)は国際フェスティバル「JAPAN! CULTURE+HYPER CULTURE」(ワシントンD.C./アメリカ)、現代美術展「KITA!! Japanese Artists Meet Indonesia」(ジャカルタ/インドネシア)に招聘された。デザインユニットの「生意気」や「graf」、オーストラリア人アーティスト、ジャスティン・カレオによる舞台美術など異分野とのコラボレーションにより、ダンス界のみならずデザイン界や現代美術シーンなど、他ジャンルからも高い注目を集めている。



伊藤千枝

珍しいキノコ舞踊団の全作品の演出・振付・構成を担当。2003-04年「ドレミノテレビ」(NHK教育)、2007年映画「めがね」(萩上直子監督)、UA「黄金の緑」、2008年トーク番組「2クール」(NTV)など、映画、テレビ、ミュージックビデオ、CMの振付を手がけるなど舞台作品にとどまらない活動も精力的に続けている。2007年には、YCAMにて振付創作ワークショップをおこない、館内各所で成果発表するツアー形式の公演をおこなった。



1. 「フリル(ミニ) ワイルド」 原美術館 (2002) photo: Namaiki
2. 「FLOWER PICKING」 びわ湖ホール (2003)
3. 「あなたの寝顔をなでてみる。」 (2007) photo: Yohta Kataoka
4. 「珍しいキノコ大図鑑」 (2008) photo: Yohta Kataoka

山口情報芸術センター [YCAM]の滞在制作とは…?

山口情報芸術センター [YCAM]企画・制作のもと、アーティストが3週間~1カ月間にわたってYCAMに滞在し、アート・舞台作品を制作する「滞在制作」。YCAMでは、この「滞在制作」により、これまでに約40点ものオリジナル作品の制作/発表をおこなってきました。既存の優れた作品を紹介するだけでなく、YCAMから国内外へと作品を発信するこうした取り組みは、公演・展示スペースとともに、専門の技術スタッフによる制作セクション「YCAM InterLab (インターラボ)」を併せもつYCAMの特徴のひとつと言えます。

昨年度の滞在制作によって発表したパフォーマンス作品「true / 本当のこと」は、金沢、横浜を経て、今年度にはシンガポール、ニューヨークでの公演をおこないました。YCAMの滞在制作によって生まれた数々の作品は、国際的にも高い評価を受けています。

音楽

大野由美子 (おおのゆみこ)

1993年結成のロック(?)バンドBuffalo Daughterメンバー。アメリカのレーベルからCDをリリースしたことから、活動の場を東京から世界へと広げる。細野晴臣、鈴木亜美、夏木マリ、Underworldなど、さまざまなアーティストのプロデュースをするほか、リミックス、CM、TV、ゲーム音楽等も手掛ける。Bass、Mini Moog、Triple Cello Pan奏者としてUA、ヤン富田、立花ハジメ、Little Tempo、Tei Towa、Chibo Matto (アメリカ)、Sean Lennon (アメリカ)、Modendog (タイ) といったミュージシャンとライブツアー、楽曲制作をおこなっている。



plaplast (ぷらぷらっくす)

現実とイメージをつなぐファンタスティックなメディアアート

スプーンや時計などの日用品を使ったオブジェに触れると、その影から動物や飛行機などのアニメーションが生まれて動き出すという作品など、ポエティックなインスタレーションを発表してきたメディアアートユニット minim++ (ミニムプラプラ) と、鏡に写った自分とホッケーゲームで対戦できる作品など、身体やモノの機能、性質を拡張するインタラクションやコミュニケーションを生む斬新なメディア技術の研究者である 寛 康明が中心となって結成されたアートユニット。

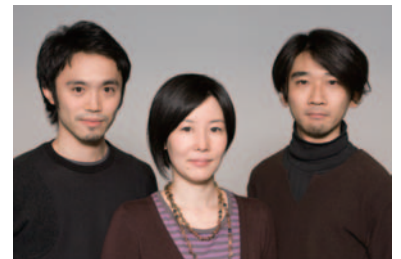
「影」、「匂い」、「足跡」、「声」といった身近でありながら、とらえどころのない存在、あるいは、存在の痕跡をテーマにした彼らの作品は、デジタルテクノロジーを用いながらも、モノが持っている手触りを丁寧に伝える表現で、国内外で子供から大人まで多くの人に親しまれています。

現実とイメージの世界を魔法のようにつなぎながら、新しい知覚体験と空間を作り出す plaplast。今回は、ダンサーというリアルな身体と向きあうことで、舞台空間に新たな世界を描き出します。

plaplast (プラブラックス-近森 基+久納鏡子+寛 康明)

メディアアートユニット、minim++ (ミニムプラプラ) として活動していた近森 基と久納鏡子に寛 康明が加わり、2002年頃からコラボレーションを開始。メディアテクノロジーを駆使しつつも、ぬくもりのある身近な要素を取り入れた作品で高い評価を得ている。

近森と久納は、1996年ころより子どもの遊びや玩具をモチーフにしたインタラクティブな作品を制作し、パリのポンピドゥセンターや東京のNTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、東京都写真美術館など、国内外で作品を発表している。「KAGE」(1997) は、1998年「文化庁・メディア芸術祭」デジタルアート・インタラクティブ部門大賞を受賞し、7ヶ国10都市以上で展示。代表作「Tool's Life」(2001) はバージョンを発展



させながら、10ヶ国10都市以上で紹介されている。寛は2007年に東京大学大学院学際情報学府の博士号を取得し、実世界指向インタラクティブメディアの研究開発に従事する一方で、SIGGRAPH、文化庁メディア芸術祭などでアート作品を発表。2004年、NHKデジタルスタジアム年間グランプリなど数多くの賞を受賞している。

2004年、3人は有限会社 plaplast を設立。2005年、愛・地球博の環境省出展パビリオンやヨルダン館での展示をはじめ、商業スペースやイベントでの空間演出や展示、映像コンテンツ、インタラクティブシステムの開発、プロダクトデザイン、大学との共同技術開発なども手がけている。2007年には「A Tale of Stray Kittens - 異世界旅行猫絵図 -」(名古屋ルーセントアベニュー) でグッドデザイン賞 (建築・環境デザイン部門) を受賞。「匂い」を視覚化する近作の「hanahana」は、「アルス・エレクトロニカ・センター・エキシビジョン」(リンツ、オーストリア) の常設展示。

1. 「Tool's Life」(2001)

2. 「murmur sky」(2007) 社 哲郎との共同制作 photo: 太田拓実
写真提供: NTTインターコミュニケーションセンター [ICC]

3. 「hanahana」(2006)

関連イベント

バックステージツアー [90分バージョン]

「YCAM茶話会 vol.7「見たことない!」を生みだす制作現場のヒミツ」

2月14日(土) 14:00-15:30 参加無料 定員:30名(申込先着順、空きがあれば当日参加も可)

[申し込み方法] はがき・Fax・e-mailにて、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、グループでお越しの場合はその人数をご記入の上、下記へお申し込みください。

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 山口情報芸術センター バックステージツアー係 Fax: 083-901-2216 e-mail: backstage@ycam.jp

鑑賞初心者はもちろん、舞台上に興味をもつ方々に向けて、ダンスや演劇、パフォーマンスといった舞台に関する作品の見どころを、YCAM劇場スタッフがリラックスした雰囲気の中で解説する「YCAM茶話会」。今回は、珍しいキノコ舞踊団とplaplaxの制作現場に潜入します。

バックステージツアー [20分バージョン]

「世界初演直前! 舞台のぞき見ツアー」

2月15日(日)、22日(日) 14:00-14:20 参加無料 定員:各回20名(先着順) [申し込み方法] 当日13:45までにYCAM1F窓口までお申し込みください。

YCAMの教育普及担当者のガイド付きで、作品完成間近の緊張感溢れる劇場をこっそり見学します。

上映会

2月21日(土) 13:30 / 16:00 22日(日) 15:00 / 17:30

「めがね」 2007年 / 106分 / 監督・脚本: 荻上直子 / メルシー体操振付: 伊藤千枝

料金: 一般 1,000円 any会員・学生 800円 ジュニア(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障がい者と介護の同行者1名 500円(各回入替制・先着100名)

東京公演

3月19日(木)~22日(日)

会場: シアタートラム 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4丁目1番地1号 Tel: 03-5432-1526 (代表)

お問い合わせ: 世田谷パブリックシアター Tel: 03-5432-1526 <http://www.setagaya-pt.jp/>

開催概要

山口情報芸術センター開館5周年記念事業: 滞在制作/パフォーマンス公演

珍しいキノコ舞踊団 × plaplax 新作ダンス作品

The Rainy Table [ザレイニィ テーブル]

2009年2月28日(土) 19:00 / 3月1日(日) 14:00 *各30分前開場

3月1日終演後、参加アーティストによるポストトークをおこないます。

公演チケットの半券をお持ちの方のみ入場可能。

会場: 山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

振付・構成・演出: 伊藤千枝(珍しいキノコ舞踊団)

舞台美術・映像演出・メディアテクノロジー: plaplax(近森 基+久納鏡子+寛 康明)

音楽: 大野由美子(Buffalo Daughter)

演出補: 小山洋子

振付協力: 珍しいキノコ舞踊団

出演: 井出雅子、山田郷美、篠崎芽美、茶木真由美、中川麻央、伊藤千枝

舞台監督: 安田美知子

衣裳: AOMI

アニメーション制作: 小原 藍(plaplax)

照明: 高原文江(YCAM InterLab)

音響: 伊藤隆之(YCAM InterLab)

映像システムデザイン: 大脇理智(YCAM InterLab)

技術協力: YCAM InterLab

宣伝美術+コピー: 伊藤ガビン(NNNNY)+四つ葉加工

主催: 財団法人山口市文化振興財団、財団法人せたがや文化財団、珍しいキノコ舞踊団、plaplax

企画・制作: 珍しいキノコ舞踊団、plaplax、山口情報芸術センター [YCAM]、世田谷パブリックシアター

助成: 平成20年度文化芸術振興費補助金(芸術創造活動重点支援事業)、財団法人地域創造

協賛: 株式会社資生堂

後援: 山口市、山口市教育委員会

[チケット情報]

チケット発売日: any会員先行予約12月6日(土)~一般発売12月13日(土)~

料金: 全席自由(整理番号付)

前売 一般 2,500円 any会員・特別割引 2,200円

当日 2,800円

[チケット取り扱い (any会員、一般とも共通)]

インターネット <http://www.ycfcp.or.jp/> (24時間受付 要事前登録)

電話/窓口 山口市文化振興財団チケットインフォメーション (YCAM内)

083-920-6111 (10:00~19:00 火曜休館 祝日の場合は翌日)

JCDNダンスリザーブ <http://dance.jcdn.org/>

特別割引 青少年(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。

当日券は各種割引の対象外となります。

未就学児入場不可 託児: 有料 2月21日(土)までにチケットインフォメーションへ要申込

車椅子席・補聴システム: 事前にお問い合わせください。



山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

[開館時間]

10:00-20:00 (夜間イベントのある日は22時まで開館)

[休館日]

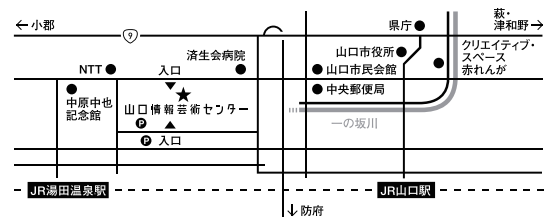
火曜日(祝日の場合は翌日)

年末年始(12/29-1/3)

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

Tel: 083-901-2222 Fax: 083-901-2216

e-mail: information@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>



アクセス:

飛行機利用

[山口宇部空港まで]

・東京から1時間30分

[山口宇部空港から]

・乗合タクシー「空港エクスプレス」でYCAMまで約1時間

(前日18:00までの予約制 大隅タクシー Tel: 0120-31-0860)

・空港連絡バスでJR新山口駅まで 20分

新幹線利用

[JR新山口駅まで新幹線のぞみで]

・東京から約4時間50分

・新大阪から約2時間10分

・広島から約35分

・博多から約40分

[JR新山口駅からYCAMまで]

・防長バス/JRバス 約30分、中国町下車すぐ

・JR山口線18分、湯田温泉駅下車 徒歩25分/タクシー 5分

・JR山口駅21分、山口駅下車

徒歩25分/バス10分(中国町か済生会病院前下車) / タクシー 5分

自動車利用

・広島から 山陽自動車道で約1時間30分、防府東ICから30分

・福岡から 九州・中国自動車道で約2時間、小郡ICから25分